

HP協力員会

> HOME > 組織・団体の文書 > 広報ひのさと >> HP協力員会

- 29 * * * * * 次期HP作業部会の検討資料、関連資料 * * * * *
- 28次期HP／HP協力員会～各会議
- 26次期HP／第1次HPの系譜(投稿画面など)
- 25次期HP／第1次HPの成果、第2次HPの新たな課題
- 24次期HP／第2次HPの機能概要
- 23次期HP／第2次HP作業部会の進め方(経過)の概要
- 22第2次宗像市コミュニティ基本構想・基本計画／H26年度
- 21第1次HPミニワークショップQ&A／H27年度
- 13予備
- 12運営協議会の規約、組織図／H29年度 * * 工事中
- 11第2次日の里まちづくり計画／H26年度 * * 要確認
- 05予備 H25年頃を予定
- 04第1次日の里まちづくり計画／平成16年度
- 03第1次コミュニティ運営協議会(町内会)の組織改定／H16年度
- 02第1次HP立上げ直後の広報部会事業計画／H16年度
- 01第1次日の里HPの開発記録／H16年度
- * * * * * 次期HP作業部会の検討資料、関連資料 * * * * *

今の会議資料は、日の里HPの「28次期HP／HP協力員会～」の添付ファイルを利用



HPによる「見える化」

■ 次期HPの資料の保存場所

- (1)過去の関連資料 : No.01～No.21
- (2)次期HP用の資料 : No.22～No.28

◇「見える化」

- ・鳥の眼、虫の眼、魚の眼
- ・地域住民の立場、生活者の視点
- * 頭のスイッチの切り替え

- 平成30年1月12日次期HPテスト工程以降のスケジュール素案
- 平成29年9月20日次期HP「トップ画面／WordPress版」資料
- 平成29年9月16日次期HP「画面構成、メニュー構成」など資料
- 平成29年9月16日次期HP「要検討課題、スケジュール表」など資料
- 平成29年8月次期HP/検討会議「要検討課題」資料
- 平成29年7月次期HP/検討会議「開発工程」、「計画書
- 平成29年7月次期HP/検討資料(B案)
- 平成28年5月度日の里ホームページ協力員会議事録(2016/05/20)
- 平成28年3月度日の里ホームページ協力員会議事録(2016/03/25)
- 平成28年1月度日の里ホームページ協力員会議事録(2016/01/29)
- 平成27年11月度日の里ホームページ協力員会議事録(2015/11/27)
- 平成27年9月度日の里ホームページ協力員会議事録(2015/09/25)
- 日の里HP、まちづくり委員会の意見への回答案
- 平成26年3月度日の里ホームページ協力員会の議事録
- 平成26年1月度日の里ホームページ協力員会の議事録
- 平成24年11月／日の里ホームページ協力員会の議事録
- 平成24年9月／日の里ホームページ協力員会の議事録
- 平成24年度第2回日の里ホームページ協力員会の議事録
- 平成24年度第1回日の里ホームページ協力員会の議事録
- 「日の里ホームページ協力員」への参加について(依頼)
- 当HP協力員会のコーナーの開設について

日の里の「見える化」が進むと



■ まちづくりに“ICT(HP、SNS、スマートフォン)の活用

- (1)域内外から日の里のまちの姿がみえる。
- (2)会議の効率化⇒会議時間、会議の回数
- (3)会議の質が向上し、まちづくりが前へ進む。
- (4)協議会と一般住民との情報格差が解消
- (5)各組織間連携、地域間の連携が可能
- (6)過去のまちづくりの知見が発展・継承できる
- (7)ICTは、若年層、現役世代の“普通の考え方”

■ HPによる「見える化」⇒投稿とは

- (1)「回覧板」、会議資料、議事録を投稿する。
日常的に作成している文書類を投稿する。
- (2)町内会の楽しい「ミカン狩り」の写真など
スマートフォンで撮って投稿する。
:HPの投稿のための作業は不要

2. 第1次HPから第2次HPの再構築へ(再構築の経緯)

(1)H16年10月に本番を開始した第1次HP(以下、旧HPと表記)は、第2次HP(以下、新HPと表記)として、再構築され、H30年4月1日、本番移行(予定)

* 第1次HPの開発の概要は、“開発記録”を参照

(2)旧HPから新HPへの再構築の経緯

①H16年5月、市のパイロット事業を、日の里の協議会が受託し、広報部会が基本構想～設計を行い、10月に本番を開始した。

* 第1次HPの開発記録を参照

②旧HPは、この間、広報部会全体会議で提案された各種改善を施してきた。

③旧HPは、13年間のICTの技術革新の進展による“陳腐化”及び、ランニング費用の高止まりが顕著になった。

④H29年8月、新HP再構築を決定、次期HP作業部会が発足した。

<参考:パイロット事業>

市は、旧HPの基本ソフトの開発費用及び、年間のランニング費用を負担した。

HXX年X月以降、HPの資産とランニング費用の負担を日の里の協議会に移管した。

3. 第2次HPの検討の概要(検討の前提、実行体制)

(1) 新HPの再構築の作業部会の検討の前提など

H29年7月、協議会三役・広報部会の合同会議に於いて、活動方針を確認

- ① 新HPの本番移行は、H30年4月1日
- ② 新HPに関わる、一時費用・年間のランニング費用は、予算の枠内
- ③ 新HPの目的・目標は、H16年度の協議会で承認された旧HPの目的・目標を発展・継承
- ④ 新HPの開発工程は「基本構想」から「本番移行」終了まで
- ⑤ 開発工程の節目で協議会長の承認、広報部会全体会議での報告・確認(手続面)が必要

(2) 次期HPの検討の実行体制

H29年8月、協議会長をトップとする実行体制を発足させた。

- ① 次期HP検討会？ 略
- ② 次期HP作業部会 ⇒ 次期HP検討会の下部組織
作業部会長1人(協議会副会長)
広報部会長代行1人、事務局員1人、広報部会員1人、まちづくり委員2人、HP協力員3人

4. 第2次HPの検討の概要(実行スケジュール、HP事業者の選定)

(3)HP事業者の選定

宗像市を拠点とするホームスタッフ社を発注先とした。

- ①H29年8月、KS大学研究室と検討を開始したが、開発ツールのCMS(無料オープンソース)によるHP投稿時の操作性、レンタルサーバの費用、保守体制など、予期せぬ課題が浮上したため検討を断念した。

KS大学研究室には貴重な情報を提供して頂いた。

- ②一方、ホームスタッフ社の場合、費用総額、手作り(プログラム)とCMSの併用によるHP投稿時の操作性、本番移行後の保守体制など、協議会の発注要件に適合した。

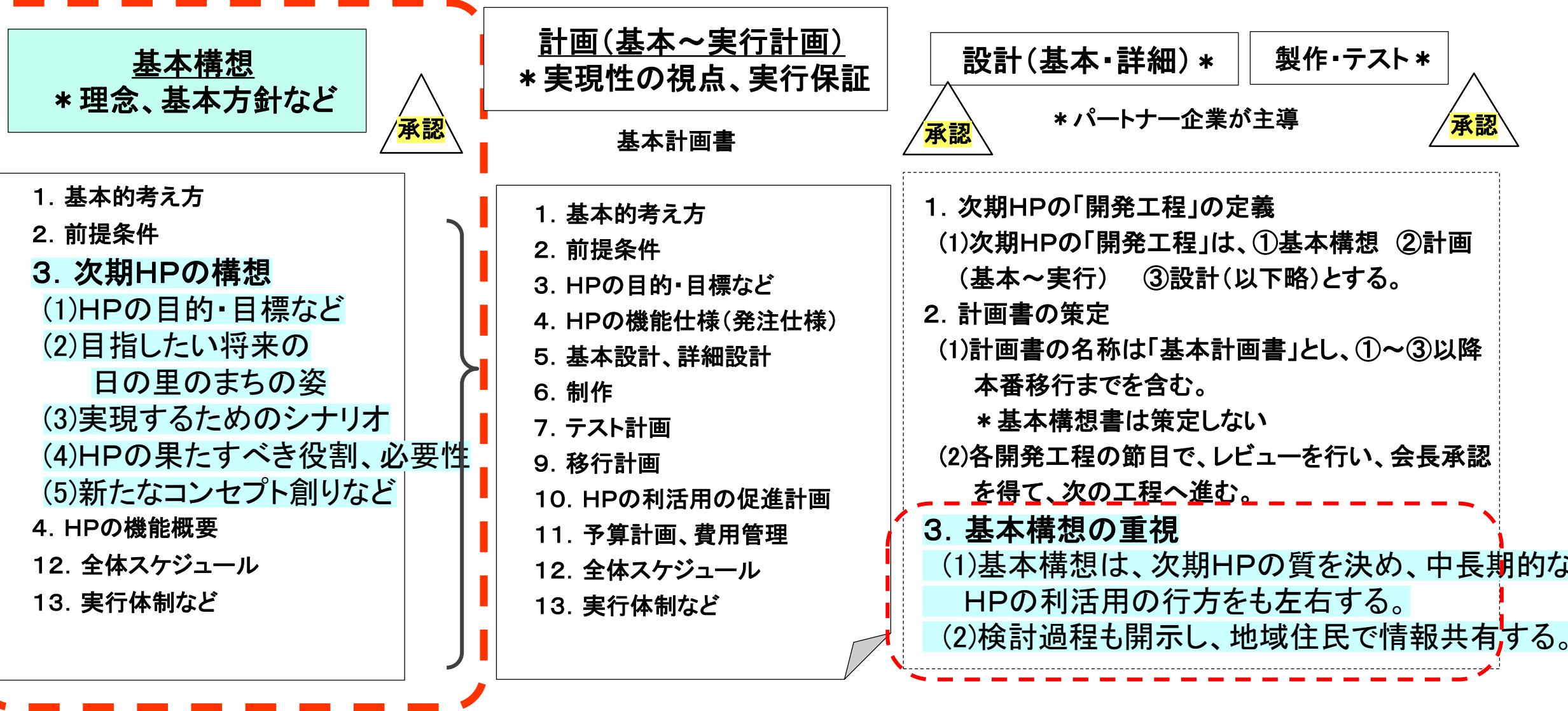
(4)次期HPの概略スケジュール

- ①仕様検討:9月~12月末(発注仕様書作成)
- ②仕様確認、HP基本ソフト開発:1月から2月末
- ③動作テスト、総合テスト:3月16日~
- ④本番切替:4月1日
- ⑤第1次HPの停止:3月21日

5. 次期HPの「開発工程」及び、「計画書」の考え方

☆7月26日三役・広報部会の合同会議
基本構想から始めること

時間軸



6. 第2次宗像市コミュニティ基本構想・基本計画(抜粋)

2018/3/17 抜粋版作成

第 2 次
宗像市コミュニティ基本構想・基本計画

地域の個性を磨き、課題に挑む
～地域課題の解決 特色ある地域づくり～

出典: 宗像市ホームページ

参考

平成 27 年度 (2015)	平成 31 年度 (2019)	平成 32 年度 (2020)	平成 36 年度 (2024)
第 2 次宗像市総合計画 (前期基本計画)		第 2 次宗像市総合計画 (後期基本計画)	
第 2 次宗像市コミュニティ基本構想・基本計画			

- 次期HP作業部会員の注釈
- ①本基本構想・計画の審議には、のコミュニティの代表者が参加
 - ②原本容量が大きすぎるため、抜して、第1次日の里HPに投稿
 - ③国や宗像市の考え方を理解す感じた

- ①国と市の方針は「地域分権」推進
・協議会の規約(目的)との関係
- ②協議会の計画は10年単位
- ③「第2次市」地域住民の立場、生活者の視点を基に参照
・次期HPの成果と課題の“考え方”の「共通の尺度」を合わせる

各地区まちづくり計画の策定状況

地区名	策定年度
東郷	平成 19 年度 (平成 24 年度見直し)
日の里	平成 16 年度 (平成 26 年度見直し)

策定や見直し作業の完了年度

平成 27 年 3 月
宗 像 市

7. 「市2次構想・計画」／参考として引用した文言など

1. 「第2次基本構想・計画」とは

今後10年間のコミュニティ施策の推進のため、行政が中心になって取り組むべき施策を定めたもの

* 宗像市の12地区コミュニティの代表者も「市2次構想・計画」の審議会などに参加している。

「市2次構想・計画」を参考とした、参考にした“考え方、項目・文言”などは、概ね、以下の通り

1. 取組姿勢

(1) 第1次基本構想・計画に基づいて取り組んだ結果の検証、第2次では、今までの成果を継承しながら、さらに地域の個性を磨き、課題に挑む

2. コミュニティの将来像

(1) 運営体制の基盤強化より効率的で効果的な運営体制の基盤強化を図る

(2) 地域特性を活かした事業展開

(3) 多様な担い手による連携

3. コミュニティ機能の充実・強化

(1) まちづくり計画の推進

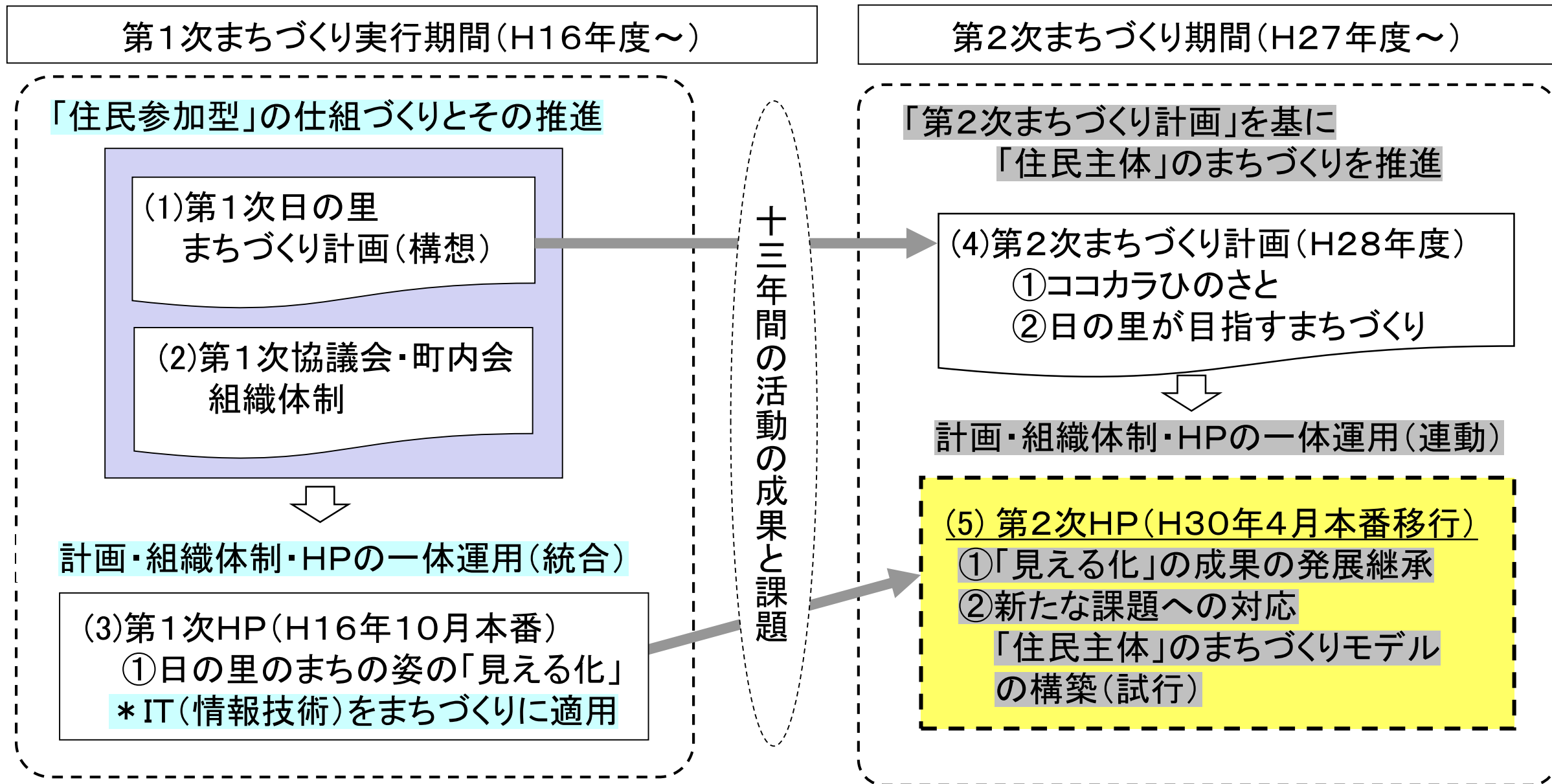
4. 地域力を活かしたまちづくり

(1) 地域特性の確立

(2) 地区の強み弱みの共有 (リスク管理)

8. 第1次HP／成果と課題、第2次HPの新たな課題

☆計画に対する結果の検証



9. 第1次HPの総括／全体概要

1. 第1次HPの成果

第1次HPは、以下により、所期の目標を確保できたと考えられる。

* 必要に応じて、外部の“専門家”を交えた意見交換の場があった方が良いかも知れない。

(1)第1次HPは、協議会(町内会)の組織改定、日の里まちづくり計画(構想)、広報部会全体会議など一体運用の結果、まちの姿の「見える化」は概ねできているとの判断⇒ 第2次HPに継承

①10年以上前のまちの姿、まちづくり計画、組織体制とその考え方、HPの開発記録などが、10年後、20年後も、HPを介して後世につながる。

②過去の協議会の成果や新たな課題を発展・継承できる。(「市2次構想・計画」の指摘事項)

(2)HP後発の他の地域の「お知らせ型HP」は、ネットで検索しても、何処も”苦戦”している様に見える。

(3)ICTの利活用は、今や時代の潮流、産業構造の転換や社会の在り様をも変革している。

方向性として、まちづくりに“ICT(HP、SNS、スマートフォン)の利活用”は、若年層、現役世代がまちづくりの主役になる、今後に期待したい。市のパイロット事業はその先行投資と考える。

(4)日の里HPは「協議会の最大の強み」、全国的にも、事例が殆どないと思われる。

2. 第2次HPは、全国的にも数少ない「まちづくり総合型HP」と位置付けられ、H16年以降の運用実績も継承している。

第2次まちづくり計画(構想)の“団地再生”と“日の里HPのソフトパワー”を組み合わせた、新たなまちづくりの「目標設定」につながる可能性はある。

10. 第1次HP／系譜

☆地域HPでは避けては通れない体験、第1次HPの成果とは

第1次まちづくり計画期間H16年～H26年度

H27年度～第2次まちづくり計画期間

第1次HPライフサイクルは
3～5年(市パイロット事業)

成長期

成熟期

萌芽期

H23年6月100万件

H28年9月150万件

第2次
目標

H26年まちづくり
委員会提案

第2次まちづくり計画
第2次HP本番H30年4月
「まちづくり総合型」

偶然性と必然性

啓発活動

この間、後発の地域HP？

事務局交代期の影響～H23年

HPへの理解が全体的に進んでいない

H29年6月次期HP
お知らせ型(案)

H16年10月

H22年10月

H26年10月

H29年10月

H30年4月

第1次HPの成果：“まちづくり総合型HP”として、全国初「まちの姿の見える化」を推進、第2次に継承できたこと。

11. 第1次HP／投稿件数の課題 ⇒ ☆実現すれば、第2次HPの投稿件数は増加

HPの投稿件数が少ない要因

(1)HPの必要性や「何が良くなるか」が不明

(2)啓発活動に役員会、事務局の関与できていない

(3)投稿するための全体のルールが分らない

(4)HPのメニュー構成が分かり難い、投稿がし難い

(5)パソコン操作が無理

(6)当組長会では投稿するとは決めていない

(7)投稿する時間的余裕がない

対応策など ②“町内会”表記は「各組織」

A. HPに関する、目標・目的、将来展望及び、利活用に必要な情報を明示、全て「見える化」する。

①広報部会全体会議などで、適宜、説明を行う。

②HPの利活用は、各組織や投稿者の自律的な行動を促す方向で進める。

* 役員会、事務局、広報部会の負担軽減につなげる

B. ①協議会長(役員会)から、町内会へ投稿の要請を行う。

②広報部会から広報部会員経由で同様の要請を行う。

町内会は自治会組織のため、投稿するか否かは自主判断、投稿は、本来、組長会と町内会(全組員)のため。

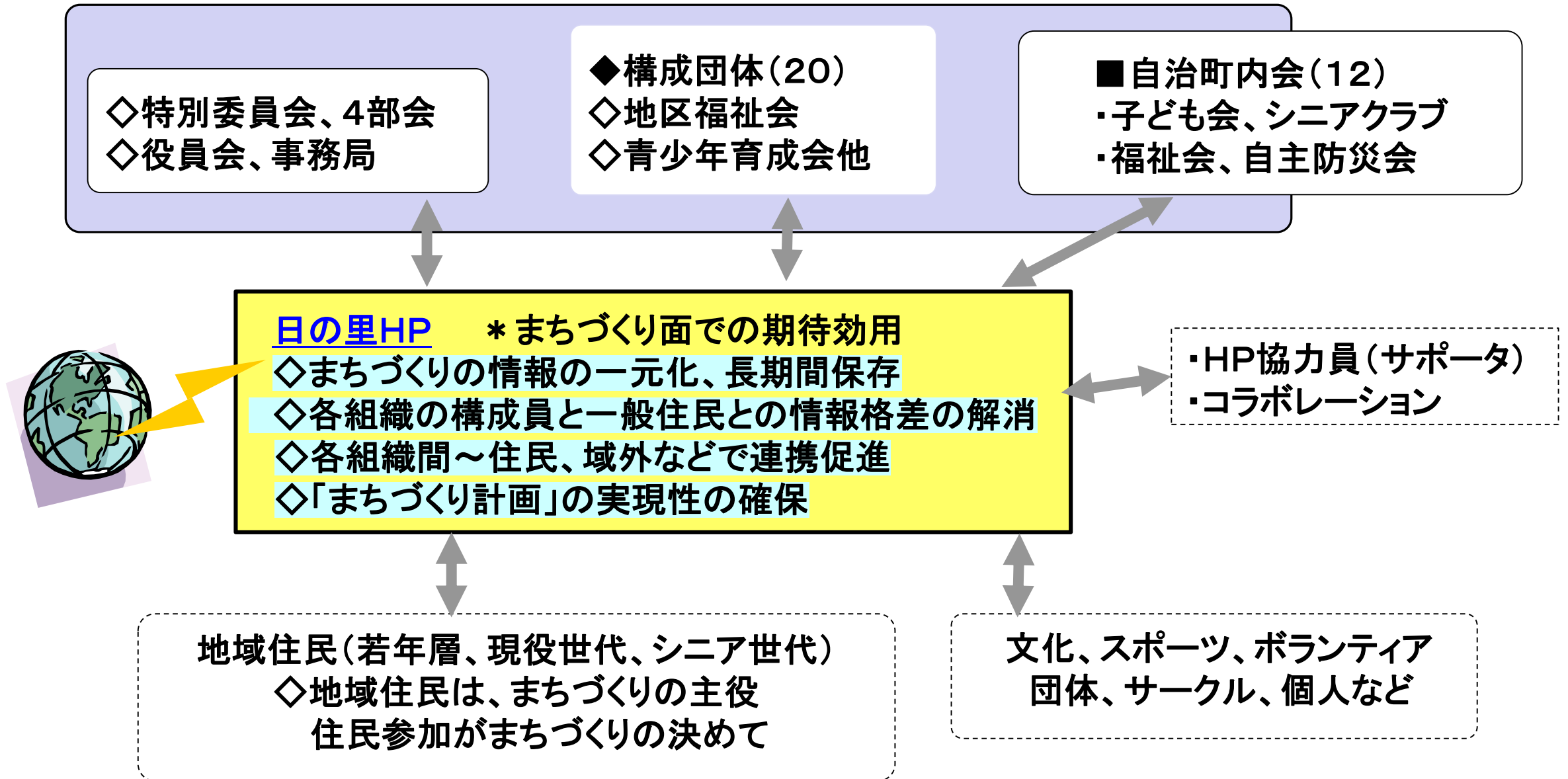
C. HP基本ソフトは新規開発により、使い易くなった(操作性) スマートフォンの利用が可能となった(若年層、現役世代)

D. 町内会でHP協力員(サポータ)を確保する。

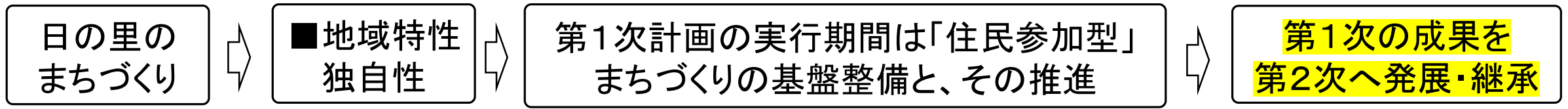
E. 先ずは、生活が優先、無理はできない、長続きしない

12. 第2次HP／HPの概念図

☆期待効果など



13. 第2次HP／「まちづくり計画の推進」に関する有用性 凡例：◎印は新規対応（継承・発展）



■ 日の里HP (H16年10月から約13年間持続)
◇まちづくり総合型HPは全国的にも希有⇒偶然性と必然性
☆ICTをまちづくりに応用「見える化」⇒住民に知見が蓄積

- ・累計アクセス件数：約1,585,000件
- ・累計クレーム発生件数：数件

■ HP協力員会（サポータ制）
◎各組織にサポータ制を拡大⇒課題

■ 情報の発生箇所（各組織）が直接投稿

- (1)HPの記事の質と鮮度の確保
- (2)セキュリティー水準を保つ

◎ハンドルネームをHPソフトから自動表示

■ HP利用規約の周知
投稿の主管組織や
投稿者の自律性
(まつりなど)

■ 投稿が可能な端末

- ①パソコン、
- ◎スマートフォン
- ◎タブレット



■ 「住民参加」のまちづくりモデルの活用

- (1)①協議会と町内会（住民）との双方向、2系統の情報伝達網
- ②「見える化」されたHP

◎(2)①、②を統合すれば、効果は期待できる。

■ HPの機能

- ◎メニュー構成の変更
- ◎操作性の向上

■ 第2次HP
住民主体の「まちづくり計画」の推進が全体として可能か

14. 第2次HP／新たなまちづくりの転機

☆まちづくりの質の向上

＜投稿者＞ 協議会、構成団体、
町内会の会員、一般住民 など



日の里HP「見える化」

☆スマートフォン、タブレット端末の新規採用
まちづくり情報を、長期間、体系的に一元化(保管)

＜閲覧者＞
一般住民、協議会、構成団体、町内会、住民、域外



コミセン、自治公民館
◇無線LAN
◇大型表示パネル
◇プロジェクター



- ①スマートフォンの新規採用により、若年層、現役世代の“まちづくり参画の契機”
- ②タブレットの新規採用によりシニア世代のITリテラシー(情報技術の読み書きソロバン)の向上、幾つになっても“生涯現役”、まちづくりに参加
- ③まちづくり情報の「見える化」は、何時でも・何処でも、閲覧、投稿、ミニ会議が可能
- ④HPの会議利用は、会議の効率化、会議時間の短縮、会議の質の向上をもたらす。
- ⑤協議会の事業活動の「見える化」は、住民間の“情報格差”を補う。

15. 「見える化」が進展すると、域内外の各組織や人材と連携できる

ココカラひのさと



Wi-Fi



大学



学生



NPO



日の里コミセン



Wi-Fi

日の里HP
◇まちの姿の「見える化」
まちづくり情報の一元化
書庫(アーカイブス)

町内自治公民館



Wi-Fi

自宅



市役所



社協



地域連携



マスコミ



協賛企業




HP事業者

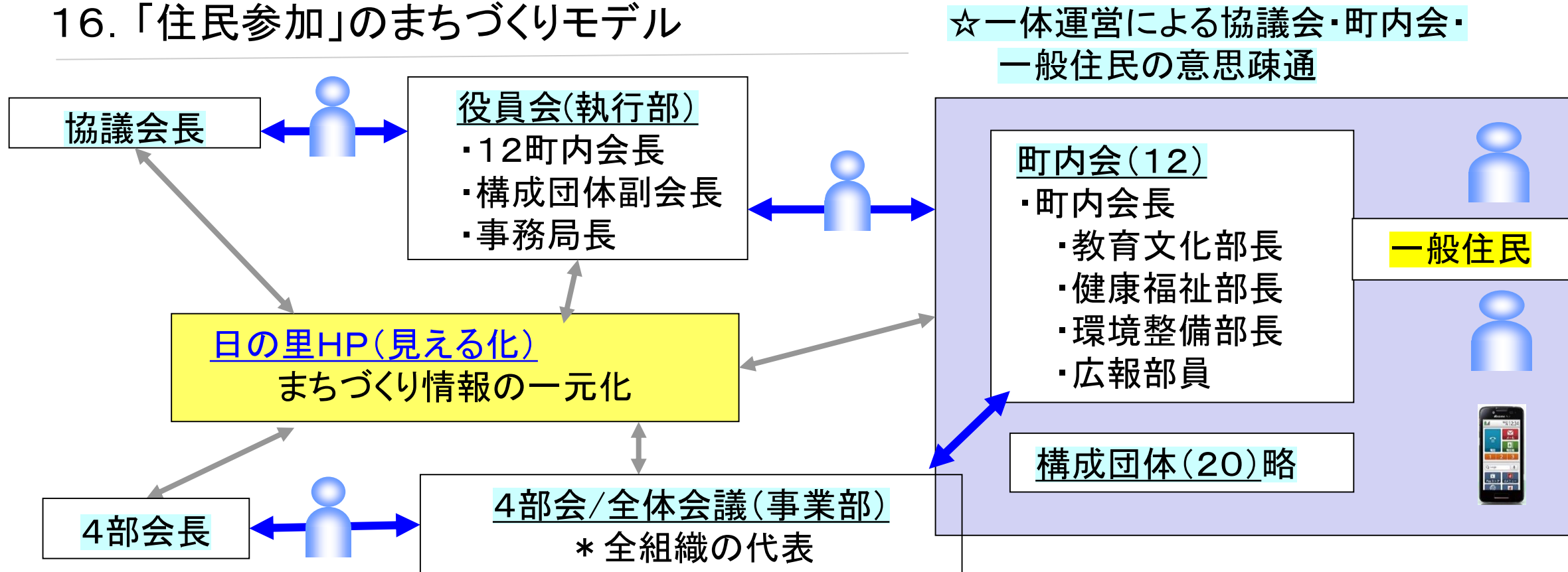


日の里をPR

- ・同期会、・職場OB会
- ・帰省先、旅行先



16. 「住民参加」のまちづくりモデル



「見える化」と、協議会～町内会間の「住民参加」の情報伝達ルートが一体運用

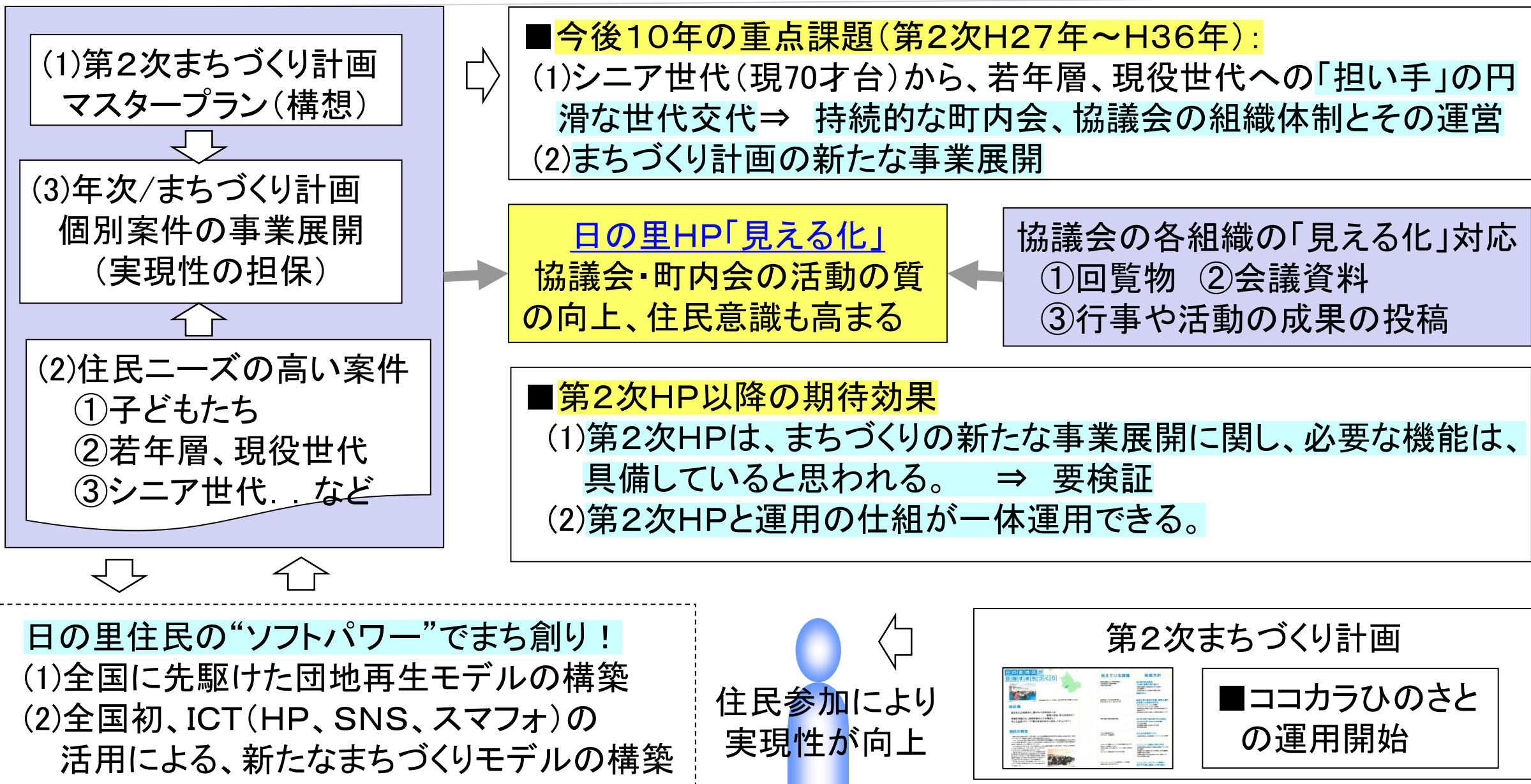
(1) 2系統、双方向の情報伝達ルート⇒ 協議会、町内会、一般住民は組織的に直結

① 協議会長発のルート: 協議会長 ⇔ 役員会 ⇔ 組長会 ⇔ 一般住民

② 部会長発のルート: 各部会の部会員 ⇔ 組長会 ⇔ 一般住民

(2) 伝達内容は、HPに「見える化」され、誰でも何時でも閲覧できる。

17. 第2次HP／日の里の強み「ソフトパワー」によるまちづくり



18. 広報日の里、日の里HPのまちの姿の「見える化」

☆日の里の地域特性・独自性

1. 日の里広報紙、日の里HPの従来からの考え方

(1)各記事の作成(情報の発信) ⇒ 情報の流れが双方向

①協議会 ②町内会 ③構成団体の各組織が各記事の作成する(情報発信)

⇒ 各組織の広報部会員の役割 (かつては、広報部会HPも独自取材を実施)

②事務局は、主として協議会の伝達が主

(2)目的は、子ども会、シニアクラブ、福祉会など、日の里のまちの姿の「見える化」のため

* 他の地区では、コミセン事務局が、主として協議会の記事を掲載、情報の流れが一方向

②日の里では、編集に毎月、広報部会スタッフの人手が掛かっている。⇒ 課題

一方、広報紙は、“HPが閲覧できない層” は必要性があるかも知れない。

(3)住民主体のまちづくりにとって、まちの姿がみえないのは、協議会として痛手かと思う。

(4)自治公民館などでの、タブレット端末によるITリテラシーの向上も課題

19. 今後10年間／地域社会に起こり得る変化

(1)現役世代：共働き・核家族・子育て・介護

(2)シニア世帯：高齢化、要援護

(3) 協議会、町内会など

①高齢化、共働き、担い手不足

(4)地域社会を取巻く社会情勢の変化

- ①国・地方の借金と財政支出増
 - ・人口減少、高齢化の進展
 - ・国際情勢や自然災害が迫打ち
- ②市など行政サービスの低下
 - ・福祉・医療、介護など
- ③世帯や地域社会にやがて影響か？

(5)年金、税制、社会福祉など、世代間の不公平感

国と市町村の基本方針は「地域分権」

◎協議会に行政サービスの一部を業務移管

■概ね平穏であった過去40年に比べ、今後10年その姿は大きく変貌するかも知れな。

◇10年後の姿を想定

- (1)家庭や隣組など生活者の姿は
- (2)協議会、町内会、構成団体は

■規約の精神

世代を越えて、明るく健全な地域社会を築く(略)